

都留高校 図書館通信

令和3年度3号

本は〇〇で読む

ある日のことです。一人の生徒が新しい本に挑戦しようと図書室を訪れました。でも、読めるか不安と表紙を開くのを躊躇しています。そこで「本は〇〇で読むんだよ」と声をかけてみました。すると、安心して表紙を開いてくれました。本の表紙は何のためにあると思いますか？それは、開いてくれたあなただけに語りかけるため。閉じたとき、あなたとの時間を永遠に閉じ込めるため。信じるか信じないかはあなた次第です…。さて、「〇〇」に入る言葉、あなたなら何と答えるでしょう。



休館日のお知らせ
6月10日(木)
12時以降

- *10:15~12:00は開館しています。
- *12時以降の返却は、返却ポストへどうぞ。
- *長期延滞している人は、速やかに返却してください。

★★★5月の貸出冊数を報告します。

	1年次	2年次	3年次	定時制	合計	教職員
5月	168	46	23	3	240	96
4月～累計	507	125	61	25	718	256

★★★月間多読賞は図書室で発表します～♪

知っていますか？ 太宰治の妻 美知子さんは、 都留高等女学校の先生だったんですよー。

「石原美知子先生の思い出」より

本名津島美知子。甲府高等女学校（現甲府西高校）から東京女子高等師範学校（現お茶の水女子大学）国文科に進み卒業。1933年（昭和8年）8月より都留高等女学校に勤務し、地理、歴史を教え、バレーボール部の副顧問や寄宿舎の舎監を務めた。

かつての教え子は美知子について「つつましく、しとやかな方でした。しかし、しんは強く、情熱的な方だったと思います。」と美知子の内に秘めた情熱を語っている。

1938年（昭和13年）9月、井伏鱒二の付き添いで太宰治とお見合いし、12月都留高女を退職。翌年1月に結婚式をあげた。（参考文献：都留高校学校史『百年の階』）

というわけで、今年も、桜桃忌@図書室を開催します。
6月19日は、太宰治生誕112年目の誕生日でもあるのです。

図書室で

『夜を乗り越える』
又吉直樹 小学館
(783/ハ)

文学作品を読むのが苦手、という人にいつもおすすめしているのがこの本です。「僕みたいなもんが、学生時代ぜんぜん勉強も出来なかった人間が、本を読み、たくさんの言葉に出会い、今日まで生きてきました」。芸人で芥川賞作家の著者が「文学の何がおもしろいのか」を作家や作品を紹介しながら優しく語る。



桜桃忌

『超訳 人間失格』
齋藤孝 アスコム
(910.2/ダ)

主人公葉蔵の気持ちが分からない、と感じたら、本書がヒントになるのでは。文学を理解するコツは「登場人物の心情に寄り添いながら、書かれていない部分を想像力でおぎない、自分の内面に小説の世界を展開させる」ことだと著者は言う。作品を読んで自分の心に思いがけなく生まれた光や闇。その発見こそ「文学」なのでは。



『回想の太宰治』
津島美知子 人文書院
(910.2/ダ)

「会わぬさきからただ彼の天分に眩惑されていたのである」。前述の人となりの通り、つつましく強く、秘めた情熱を感じる。「御坂峠」では、見合いや結婚の経緯を。「『女生徒』のこと」では、元となったノートを書いた女生徒との後日談が面白い。太宰の素顔が微笑ましく、作品の背景が興味深い。太宰作品とともに、都留高生にぜひ読んでほしい一冊！



◆おすすめの新刊

『皮膚はいつもあなたを守ってる 不安とストレスを軽くする「セルフタッチ」の力』

山口創 草思社 (141/ヤ)

皮膚にこんな役割があったとは！人と触れ合えない今、自分で自分の皮膚に触れてみる。すると外向きの意識が内向きの感覚に移り、自分の存在感を感じることで安心して癒やされるのだそうだ。

『会社で働く一製品開発ストーリーから職種を学ぶ！』 松井大助 ペリかん社 (366/マ)

会社ってどんなところだろうに答えるキャリアガイド。「家庭用ロボットをつくり、人びとに届ける」ため、4つの会社の様々な職種に携わる27人の会社員の仕事とやりがいを詳しく紹介する。

『絵と図でわかるデータサイエンス—難しい数式なしに考え方の基礎が学べる』

上藤一郎 技術評論社 (417/ウ)

データを知りデータを活用する(データリテラシー)ための科学「データサイエンス」の入門書。つる探にもきつと役立つ調査データの収集や解析の方法を「絵本」のように分かりやすく解説！

『臨床の砦』 夏川草介 小学館 (913.6/ナ) … 「この戦、負けますね」

現役医師である『神様のカルテ』の著者が、未知のウイルスに正解のない戦いを強いられた長野県の小さな感染症指定病院を描く。フィクションでしか語れない真実がある。感染者数や死者数を伝える毎日のニュースに、いつしか鈍感になっていた自分を戒めた。闘いはまだ終わっていない。

『エレジーは流れない』 三浦しをん 双葉社 (913.6/ミ) … →「哀しい歌」は似合わないのだ。

餅湯温泉商店街の土産物屋の息子怜には物心ついたときから、おかんとお母さんがいた。ややこしいのだ。ある日、博物館の縄文土器が盗まれ窃盗団と対決する羽目に。二人の母、二人の謎の男、幼なじみたち。普通の高校生怜の青春は、「餅」のように柔らかく「温」泉のように温かだから→

『ミカンの味』 チョ・ナムジュ著 矢島暁子訳 朝日新聞出版 (929/チ) … 私たちの「緑の時間」の物語

いつも一緒の4人。ソラン、ダユン、ヘイン、ウンジはそれぞれにままたらな現実を生きている。中三になる前、旅先の済州島で、未来が変わるかもしれない約束を交わすが、実はみんなの本心も、自分の本心もわからなかった…。孤独、嫉妬、秘密、傷つけ合い探し合う連帯感。『82年生まれ、キム・ジョン』の著者が描く、「ミカンが熟す前の」少女たちの抵抗と成長が鮮烈だ。

課題図書 紹介します！ ～第67回青少年読書感想文全国コンクール

★『水を縫う』

寺地はるな 集英社 (913.6/テ)

刺繍が好きな高校生の清澄。かわいいが苦手な姉水青。姉弟に「普通」を求める母さつ子を諭す祖母文枝。家庭を持つには自由過ぎた父全を支える親友の黒田。普通の呪縛を乗り越えようとす家族の心情を流れる水のように繊細に描く。水はたゆたう。私たちの心もそう。だからこそ変わることができる。

★『科学者になりたい君へ』

佐藤勝彦 河出書房新社 (407/サ)

「ふしぎだな、おもしろいな、しりたいな」という思いにしたがって行動すれば、みんな『科学者』なのだ」と宇宙物理学者の著者がエールを送る。科学者になりたい君も、そうでもない君も、これから自分の力で進路を切り拓くヒントと勇気をもらえるよ。

★『兄の名は、ジェシカ』 ジョン・ポイン著 原田勝訳 あすなろ書房 (933/ポ)

サムは13歳。母は「ダウニング街10番地」をめざす大臣で、父は秘書。4歳年上の兄ジェイソンはサッカー部のキャプテンで人気者。難読症のサムに優しい。その兄がトランスジェンダーであることを告白し、理解しない家族の元を去り「ジェシカ」になってしまった…。「この学校で一番勇敢なのはあなたの兄さんよ」学校事務員ブラウンさんの言う通りだ。あんなに嫌がっていたジェイソンの姿でメディアの前に現れ、母を助け、家族のピンチを救ったのだから！お互いの大切さに気づき、絆を取り戻していく家族を、イギリスらしいユーモア満載で爽やかに描く。

話題の新刊も続々新着！！

中村文則『カード師』朝日新聞出版

平野啓一郎『本心』文藝春秋、芦沢央『神の悪手』新潮社

中山七里『ヒポクラテスの悔恨』祥伝社

神永学『火車の残花 浮雲心霊奇譚』集英社

綾崎隼『死にたがりの君に贈る物語』ポプラ社

長崎尚志『キャラクター』小学館…etc.

◆編集後記 梅雨入り間近。図書室は雨の日の味方です。何か面白いことないかな～と思ったら、図書室に来てね！

『スモールワールズ』

一穂ミチ 講談社 (913.6/イ)

不思議な味わいが後を引く短篇集。これはあの人で、この話はあそこにつながってと、何度もページを行き来した。

この6つ物語のように、私たちの小さな世界は、いくつもの伏線で繋がったり重なったりしている。ならば、右と左に世界が分かれる瞬間へ、戻ることもやり直すことも出来ないのだろうか。タイトルの意味には二度納得でした。

司書の
イチオシ